

テーマ	令和型 教育のユニバーサルデザインを考える ～誰一人取り残さない教育の実現に向けた新たな一歩～
発表者 (所属)	企 画 者：上條 大志 (小田原市教育委員会) 司 会 者：上條 大志 (小田原市教育委員会) 話題提供者：片岡 寛仁 (小田原市立酒匂小学校) 小野 絵美 (松本市立筑摩小学校) ささ T (YouTuber) 指定討論者：阿部 利彦 (星槎大学大学院教育実践研究科)
【発表概要】 次期学習指導要領では、「多様性の包摂」が重要なキーワードとして示され、一人一人の違いを尊重しながら共に学ぶ学校づくりがこれまで以上に求められている。その実現の鍵となるのが、「教室環境」「授業」「人的環境」の3つを一体として捉える「教育のユニバーサルデザイン (以下、UD)」だと考える。多様な子どもたちが安心して学び、自ら考え、仲間と協働しながら未来を切り拓く力を育むためには、授業改善だけでなく、教育環境のすべてを支える仕組みが欠かせない。 本シンポジウムでは、授業、個別支援と全体支援の視点から具体的な実践を共有し、「誰一人取り残さない教育の実現に向けた新たな一歩」について考えていく。 【話題提供1】「子どもの本音から学ぶ教師の出番や役割とは」 小田原市立酒匂小学校 片岡 寛仁 私たちが目指す「多様性の包摂」の実現において、何よりもまず大切にしたいのは、子どもたちの本音に耳を傾けることである。教室環境・人的環境・授業環境を一体として整える「環境デザイン」こそが、子どもの本音を受け止めるための土台となる。しかし子どもたちの本音アンケートが明かしたのは、半数近くが導入段階ですでに学びをあきらめかけているという、多くの教師が見逃してきた現実だった。 子どもたちの「えっ」「どういうこと」という小さな「ずれ」。その中には、深い学びへとつながる大切な芽が隠れている。そのサインに寄り添い、自然と学びへと生かし、教室を整える「環境デザイナー」として。学びを導く「ファシリテーター」として。そして、子どもたちが自ら学びに向かう自律者へと導く「サポーター」として。これからの教師は、どのような出番や役割を果たすべきなのだろうか。 本シンポジウムでは、「授業 UD 5つのテクニック」などをヒントに、導入・	

展開・終末のそれぞれの場面における教師の出番や役割について、具体的な実践を交えながら話題提供する。

【話題提供 2】「全体支援と個別支援をつなぐーダブルサポートの実際ー」

松本市立筑摩小学校 小野 絵美

YouTuber ささ T

教育の UD 化を進める際、支援が必要な子ども一人ひとりへの配慮に意識が向きすぎるあまり、学級全体への働きかけが十分になされず、結果として学級経営が難しくなることがある。

もちろん、教育の UD は特別支援教育の視点を大切にし、合理的配慮や個に応じた支援を充実させることを重要な柱としている。しかし、これからの教育の UD には、それだけではなく、学級全体への働きかけを通して、誰もが安心して学び、互いの違いを認め合える教育環境を整えていくという視点が欠かせない。

すなわち、個への支援と集団への支援を両輪として捉える「ダブルサポート」の視点である。そして、このダブルサポートを機能させる土台となるのが、誰もが安心して学び、挑戦し、支え合うことのできる「人的環境」づくりである。

本シンポジウムでは、教育の UD における「ダブルサポート」の考え方を共有するとともに、誰にとっても学びやすい人的環境づくりを基盤とした、個と集団へのダブルサポートの実践について話題提供を行う。